

研究資料

関西福祉大学の谷川ゼミ会報について

Analytical note on the bulletins of Tanikawa's seminar

谷川 和昭

要約：ゼミ会報は学生と教員の双方にエンパワメントをもたらすのかどうかについて確認することを目的に調査を実施した。2009年12月に当該ゼミ生に対して、無記名の質問紙調査を行ったところ、ゼミ会報は学生にとって、読んで良かったものであったこと、好感が持てたこと、参考になっていたことが明らかになった。しかし、仲間とのコミュニケーションにはさほど役立てられていないことが明らかになった。また、今後に期待をかけるものは過半数を超えているが、継続していく上での課題も垣間見られた。さらに、関心を持って読んでもらった記事は各号最初の記事もしくは学生にとって身近な内容であることがうかがえた。以上のことから、まとめると、ゼミ会報の編集・発行は、学生にとっても教員にとっても、ささやかながらもエンパワメントの維持向上につながっていたことが確認できると結論づけられる。

Key Words：ゼミ会報、質問紙調査、エンパワメント、教育研究活動

I. 目 的

本小稿は、筆者の教育実践のささやかな取り組みの一環の1つをアンケートを交えてまとめ上げたものである。

さて、筆者が小学生の頃であるが、学級だより、学級通信、学級新聞、等々があったように記憶している。それらを受け取り読んだときに妙に嬉しさを感じていた。その頃の懐かしさというものに耽ってしまったわけではないのだが、それを受け取る側は多少は嬉しくも感じられるものであると考える。

そのような想いもあって、ともかく今年度筆者はゼミ会報づくりに取りかかってみようと思い立った。これはゼミにおける学習の取り組みや筆者が関わることになった教育研究活動を何らかの形に残しておきたいという気持ちもあって始めたものである。

今年度より取り組み始めているゼミ会報は、創刊号を2009年5月12日、第2号を同年7月20日、第3号を同年10月30日に発行している。発行日は恣意的に決めているが、それぞれに意味合いがある。たとえば、創刊号は「看護の日」であり「民生委員の日」でもある。本

研究紀要が発刊される頃には完結号を発行しているかもしれないが、意味づけを検討したいとも思っている。

各号がA4表裏2頁のこのゼミ会報であるが、その作成には1号につきおおそ6～7時間かかっている。作成への原動力となっているのは、筆者が受け持つゼミの学生の存在が大きい。起爆剤とは言わないまでも、学習活動の何らかの足しにしてもらえたらという思いがある。そして、教員としての活動記録を幾ばくか保存できるのではないかという思いもある。

ゼミ会報の目的と意義は、1つには筆者が受け持つゼミ生へのエンパワメント¹⁾、そしてもう1つには筆者自身のエンパワメントがあると言えるであろう。このことの確認ができればと考え、今回は簡単なアンケートを実施したので、ここにその分析結果を報告することにした。

II. 方 法

1. 調査対象

2009年度本学社会福祉学部谷川ゼミの3回生15名と4回生7名を対象に質問紙調査を実施した。このうち3回生1名の回答に選択肢の矛盾など不備がみられたため除外した。よって、分析の対象は3回生14名と4回生7名の合計21名とした。男女比は男子学生が47.6%、

女子学生が52.4%，年齢平均は20.9歳±0.62歳であった。

2. 調査時期

2009年12月1日，3回生および4回生の当該授業時の冒頭で実施した。

3. 調査内容

調査にあたっては「ゼミ会報についてのアンケート」を作成し使用した（表Ⅱ－1）。ここにみられるように，質問項目は，①会報をどう思うか，②どのようなイメージを抱いたか，③大学生活のヒントにつながるか，④学習へのモチベーションに影響したか，⑤ゼミ内外のコミュニケーションに影響したか，⑥今後の会報に期待するか，⑦関心を持って読んだ記事は何か，などを問うものとした。

なお，谷川ゼミ会報の既報の号はいずれもA4表裏の1枚ものであることは先に述べたとおりであるが，現物はカラー刷りのものを編集・発行するようにしている（図Ⅱ－1, 2, 3）。

表Ⅱ－1 質問紙調査の内容

ゼミ会報についてのアンケート				
<p>今年度より編集・発行を始めた「谷川ゼミ会報」ですが，あなた自身のお考えをおたずねいたします。 統計的に処理しますので実名等が公表されることは一切ございません。 次号以降の会報記事や教育研究活動（学会発表や論文発表を含む）に反映させていただきます。 ご賛同いただけましたら，どうぞご回答ください。</p>				
Q 1. 会報をどう思いますか				
	全 号	創刊号	第2号	第3号
読まなきゃ損！	1	1	1	1
読んで良かった	2	2	2	2
読まなくてよい	3	3	3	3
読む意味がない	4	4	4	4
Q 2. 会報にどのようなイメージを抱きましたか				
1 とても好感が持てる	2 少し好感が持てる	3 あまり好感が持てない	4 ほぼ好感が持てない	
Q 3. 会報は大学生活のヒントにつながるものでしたか				
1 大いに参考になる	2 少し参考になる	3 あまり参考にならない	4 ほぼ参考にならない	
Q 4. 会報は学習へのモチベーションに影響を与えましたか				
1 とても上がる	2 少し上がる	3 若干下がる	4 かなり下がる	
Q 5. 会報はゼミ内外のコミュニケーションに影響を与えましたか				
1 とても役立つ	2 少し役立つ	3 あまり変化しない	4 全然変化しない	
Q 6. 今後の会報に期待するものはありますか				
1 大いにある	2 少しある	3 あまりない	4 とくにない	
Q 7. あなたが関心を持って読んだ記事がありましたら，当てはまるものすべての□欄に「レ印」を入れてください。				
<p>（創刊号）</p> <p>7-1 □ 初回の社会福祉援助技術演習の授業はこう行われた</p> <p>7-2 □ 携帯で 初めて撮影した集合写真</p> <p>7-3 □ 卒論、国試、就活 三本柱に挑む七人の学徒</p> <p>7-4 □ 輝ける星に…「ラッキースター」を形作ろう</p> <p>7-5 □ 社会福祉士国家試験 先輩から後輩へのメッセージ</p> <p>7-6 □ 「相談援助演習」に込められた想いとは？</p> <p>（第2号）</p> <p>7-7 □ ソーシャルワーカーデー 祝日の「海の日」に決定</p> <p>7-8 □ 演習Ⅳ、七人の学徒がゼミのあり方を議論</p> <p>7-9 □ 卒論テーマ出揃う</p> <p>7-10 □ 社会福祉援助技術演習 近況報告</p> <p>7-11 □ セミに何を贈ろう？ IVゼミ 国試全員合格 IIIゼミ 実習・演習の目標達成</p> <p>7-12 □ 出張話～怒喜交々</p> <p>（第3号）</p> <p>7-13 □ 人財・人材・人罪の違いを知る</p> <p>7-14 □ 地域社会福祉政策研究所主催 学術講演会 十二月に</p> <p>7-15 □ 社会福祉士実習指導者講習会（厚生労働省委託）</p> <p>7-16 □ 和やかな、そして 和やかに</p> <p>7-17 □ ビアスパービジョンで始まる 後期最初の援助演習（Ⅲゼミ）</p> <p>7-18 □ 日本福祉図書文獻学会第十二回全国大会に参加（Ⅳゼミ）</p>				
Q 8. 年齢、性別、学年についてお願ひします。				
年齢： [] 歳	性別： 1. 女性 2. 男性	学年： 1. 3回生 2. 4回生		
Q 9. 最後に，よろしければ何が一語お書き入れください。				
ご協力ありがとうございました。				

4. 分析方法

統計ソフト SPSSver.15 を用いて，質問紙について単純集計を行い分析した。グラフの作成については三四郎2005を用いて行った。

5. 倫理的配慮

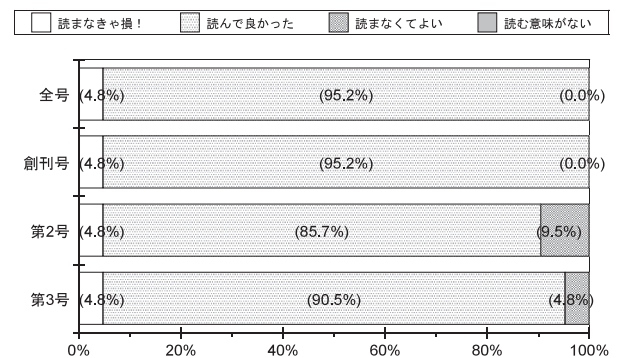
質問紙上に，統計的に処理するので実名等が公表されることは一切ないこと，次号以降の会報記事や教育研究活動に反映することなどを明記し，賛同してもらえる場合に回答を求めた。以上のことを口頭で説明するとともに，無記名であるので成績評価には関係ないことも付け加えた。

なお，ゼミ会報への記載内容等についてはその都度，当該学生より了解を得ている。

Ⅲ. 結 果

1. ゼミ会報をどう思うか

全号，創刊号，第2号，第3号のいずれも「読んで良かった」が最も多く，それぞれ95.2%，95.2%，85.7%，90.5%であった。「読まなくてよい」が第2号で9.5%，第3号で4.8%あった。「読まなきゃ損！」はいずれの号も4.8%であった（図Ⅲ－1）。



図Ⅲ－1. 会報に対する思い

2. どのようなイメージを抱いたか

「少し好感が持てる」が71.4%で最も多く，次いで「とても好感が持てる」が28.6%であった。「あまり好感が持てない」「ほぼ好感が持てない」の回答はなかった。

3. 大学生活のヒントにつながるか

「少し参考になる」が76.2%で最も多く，次いで「あまり参考にならない」が19.0%，続いて「大いに参考になる」が4.8%であった。「ほぼ参考にならない」の回答はなかった。

ハーフマーズドーフー

祝日「海の日」に決定

「ソーシヤル・ウーカー・チャー」を創設するニヨラスが研究室に押し込んだ。社会福祉関係の全国的な職能団体と社会福祉従事者養成教育機関・施設、社会福祉関連学会の十七団体で構成されるソーシヤル・ウーカー・チャーは、従事者研究協議会（代表大橋謙策氏）が、わが国の「ソーシヤル・ウーカー・チャー」の「ソーシヤル・ウーカー・デー」を毎年、祝日とする「海の日」（本年は十月一日）と定めたのである。

このことは社会福祉士を主
めとする「ソーシャルワーカー」の
社会的認知、社会的地位の向上
には大切な契機となるものであ
る。「ソーシャルワーカー」に対する
国民の理解と関心が拡がれば、
福祉の輪も揺るぎなきものとな
るに違いない。



じにんた、しーふとにーふ
 ーたはなす「庭の田」に永まら
 たらふとふく。上記の佐野
 義宗の説明にも「しーふ
 とにーふ」は「全」の「人」を「庭」に
 は「國」がなり、一つである。「力
 強く」は「く」に「力ある」か
 けられぬのになほ「しーふ」は
 人類の母胎である、を懐する
 事我輩であるといふ、その縁
 故としてしーふとにーふとにー
 ーを規定しただけなり。

これは某研究者が言っていた「福祉世界」（岡田藤太郎氏の造語）を想起させるものがある。ソーシャルワーカーは、この国のどこどの地域にも必要不可欠な人的資源なのである。

なほ、「ハーナルリーカー」といふ用語は一九〇〇年頃に教育者のバトンが最初に用いた「ハーナルリーカー」からこの義助活動のことと、ハーナルリークといふことがその密な「国々」の人間の尊厳を尊重し、社会福祉に關する知識技術を用いて、生活向上の課題を抱え持つ人々に何をも「費し得ない」難になつて問題解決と否を懸て、その人らしい生活を手探りにしていく実践といふことになつてゐる。

演習Ⅳ、七人の学徒が ゼミのあり方を議論

六頁「三日(文)のヤミは」「んなヤミだつたらういふな」といふシーンを話し合つた機会となつた。ヤミは、木曜(四時限)を卒業研究、火曜(三時限)を国試学習としてゐるが、国試の受験までに、やはり実質半年間の時間しか残されてゐない。

全員合格の栄冠を掴むために、各人の主体的な取り組みが欠かせない。そこで、メンバー皆が意欲や知恵を出し合ったのである。結果、通常の授業時間以外に火曜一時限と火曜二時限に「自主ゼミ」を開始するようになった。これは新たな船出となるが、楽しんで取り組みてほしい。

卒論下へ出揃つ

卒業論文は六月に「テーマ展」、十月には「題目展」を出す。ところが本学では義務づけられている。前者の展け出し全頁がわれわれ記した。

本格的な研究活動の始まりはこれからだ。十月の「題目屋」の段階ではテーマ変更もあり得る。研究過程では多くの苦労があり、文献の調査や収集、読解、結果分析・考察、どれも初体験であるからだ。担当教員として「灯台」の如くできる限りのサポートをしていきたい。

セミが田舎す方向	そのための方法
① 田舎を出発する	① 田舎を出発する
② 田舎に到着する	② リアルタイムに到着を言い合う
③ 田舎に到着する	③ リアルタイムに到着を言い出す
④ 田舎に到着する	④ リアルタイムに到着する
⑤ 田舎に到着する	⑤ リアルタイムに到着する
⑥ 田舎に到着する	⑥ リアルタイムに到着する
⑦ 田舎に到着する	⑦ リアルタイムに到着する
⑧ 田舎に到着する	⑧ リアルタイムに到着する
⑨ 田舎に到着する	⑨ リアルタイムに到着する
⑩ 田舎に到着する	⑩ リアルタイムに到着する
⑪ 田舎に到着する	⑪ リアルタイムに到着する
⑫ 田舎に到着する	⑫ リアルタイムに到着する
⑬ 田舎に到着する	⑬ リアルタイムに到着する
⑭ 田舎に到着する	⑭ リアルタイムに到着する
⑮ 田舎に到着する	⑮ リアルタイムに到着する
⑯ 田舎に到着する	⑯ リアルタイムに到着する
⑰ 田舎に到着する	⑰ リアルタイムに到着する
⑱ 田舎に到着する	⑱ リアルタイムに到着する
⑲ 田舎に到着する	⑲ リアルタイムに到着する
⑳ 田舎に到着する	⑳ リアルタイムに到着する
㉑ 田舎に到着する	㉑ リアルタイムに到着する
㉒ 田舎に到着する	㉒ リアルタイムに到着する
㉓ 田舎に到着する	㉓ リアルタイムに到着する
㉔ 田舎に到着する	㉔ リアルタイムに到着する
㉕ 田舎に到着する	㉕ リアルタイムに到着する
㉖ 田舎に到着する	㉖ リアルタイムに到着する
㉗ 田舎に到着する	㉗ リアルタイムに到着する
㉘ 田舎に到着する	㉘ リアルタイムに到着する
㉙ 田舎に到着する	㉙ リアルタイムに到着する
㉚ 田舎に到着する	㉚ リアルタイムに到着する
㉛ 田舎に到着する	㉛ リアルタイムに到着する
㉜ 田舎に到着する	㉜ リアルタイムに到着する
㉝ 田舎に到着する	㉝ リアルタイムに到着する
㉞ 田舎に到着する	㉞ リアルタイムに到着する
㉟ 田舎に到着する	㉟ リアルタイムに到着する
㊱ 田舎に到着する	㊱ リアルタイムに到着する
㊲ 田舎に到着する	㊲ リアルタイムに到着する
㊳ 田舎に到着する	㊳ リアルタイムに到着する
㊴ 田舎に到着する	㊴ リアルタイムに到着する
㊵ 田舎に到着する	㊵ リアルタイムに到着する
㊶ 田舎に到着する	㊶ リアルタイムに到着する
㊷ 田舎に到着する	㊷ リアルタイムに到着する
㊸ 田舎に到着する	㊸ リアルタイムに到着する
㊹ 田舎に到着する	㊹ リアルタイムに到着する
㊺ 田舎に到着する	㊺ リアルタイムに到着する
㊻ 田舎に到着する	㊻ リアルタイムに到着する
㊼ 田舎に到着する	㊼ リアルタイムに到着する
㊽ 田舎に到着する	㊽ リアルタイムに到着する
㊾ 田舎に到着する	㊾ リアルタイムに到着する
㊿ 田舎に到着する	㊿ リアルタイムに到着する

■ こんなぜ三だったらしいなあ

主)優先順位:◎特に高い(5人以上賛成)、○やや高い(4人賛成)、△やや低い(3人以下)

以下、トード紹介を行う。

[illegible]

社会福祉援助技術演習 近況報告

授業の振り返りレポートから
(五月～七月)

相手の目を見て話すのはとても緊張するけど、それによって信頼関係が形成されるということが分かったので、今後、目を見て話すようにしたいと思った。

タシテ、この勉強をしめたが、口實から少しおどかせるものに終つたといふ點は、おどかし、少し照れくわしいといふ点に止まるので、しるが、いかに不安です。

(三輪佳裕)

今日の演習でのアイ・メッセージの交換がすこし難しくかったです。あと、自分の発したメッセージが他人には違った意味にとられられる場合があることをかったので、気を一つよつと思いました。』（高橋真由）

表情で今の気持ちを読み取るのは難しい、自分自身がするのがとても難しかったです。後半の言葉変換とかいろいろためになったし楽しかったです。(雲丹亀彩香)



リート技法は、何かしなくてはならないことを体験しました。できるだけ自然な会話で面接できるのが一番良いと思うけれど、初対面では難しいので、面接技法は大切だと思います。

はじめの方は内容がわからなくて困りました。でも、だんだんわかってきてみんなの意見を聴いていると、面白かったです。いろいろな面から物事を意見していて、終わりの方では自分も周りの意見に傾聴でき、納得しました。(山本真奈子)

今日で六日終了です。今回は臨海社と
らにいらした、ハナキリノエヒロツメ、ハ
ナキリノエを参観にもしました。いらいのタ
シロウが技法を実演披露してくれても感え
たので、やはり勝りました。(丹雄 謹)

今日は、計価技芸といふものを学んだ。
ふんふん・ふんふん・ふんふん、やや
にふんふんだったが、これ取り細々とみるに
分かりやすく、童謡の生活にも取り入れ
るしかたをきいて、しかも視覚的に野
解しやすいもので面白かった。(千野孝吉)

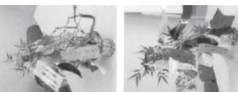


七々に何を願うか。

273 国試全真合格

Ⅲゼミ 実習・演習の目標達成

短冊に願ひ事を書いたのは何年振りのことであつたか。七月七日の夜、開始時のアヤスブLOOKとはいへ、担当教員としては少しばかり気恥ずかしいやうに感じられていた。だが、したやうにすると全員が笑顔に染みこんで、企画によからうと思つた。「みんなの願ひが、だいまちやうに……」。



学会出張 悲喜交々

新年度から慌ただしい日々が続いている。そうした最中にあるのも最低限度の研究としての努力を果たそうと努力している。出張もそのうちの一で、あいつくく取り上げたいもの。まず五月三十一日には熊本県立開催された日本社会福祉士学会の全国大会に出席を予定している。二〇〇五年六月に、来、夕々に土葬に断頭を受けた。

同会の依頼により本学で非常勤を務める趙敏廷先生が「海外研修等分科会」で「韓国のソーシャルワーカー資格と現状」について報告し、好評のうちに幕を閉じた。

で熊本黒トラメーンをおみやげの
一つとして購入した。実はこれとあ
る美味と大ヒットした。これは田沼教
員は徳島トラメーンと函館トラメーン
とを比較する美味しいうトラメーンであ
ることを評価したのであるが、それ
にまつ一品を加えるを得ない。
機会があれば、ぜひ一度を試しあ
れ。だが、趙先生にはぜひぜひ口
に合うはずの味のものであった。

六百一〇・一一日には滋賀県民に開催された日本赤十字看護婦建学会全国学術大会に出席した。「民生学」に著意する総力世代子孫の基調講演は楽しく楽しんだ。担当救済士というを田沼に参加したのでついで看護員ではない。「よさみ、中村さんよ田沼さん、熱心に耳を傾けていた。素晴らしい看護士さんです。看護士は、何よりもなやみの患者さんに全然戻り、世話をやいてほしい。」

なお、本学会で、担当教員は研究報告も行っているが、こうした活動の成果を今後も教育現場に還元していきたいと考えている。(〇〇〇〇)



日本社会思想史

そして今年であるが、十一日（水）に「介護する心と介護される心」と題し、三好明夫氏（京都ノートルダム女子大学准教授）を招聘するところが決まっている。場所はロビーロイヤール。介護に関心のある方々や学生たちの参加を歓迎したい。

[illegible]

生前に出会った。好来生の
 著書は今でもも
 珍しく出逢い。
 尊敬に値する
 知識者の一人
 である。
 早稲教員は
 翌日には研究
 発表を無事に
 終へて会場を
 後にした。



■スーパーパソコンの価格（値段）を把握できたか

項目	スーパーパソコン	平均パソコン
価格の理解	3.46	3.46
価格の満足度	3.46	3.46
価格の妥当性	2.85	2.85
価格の公平性	2.85	2.85

価格の理解 価格の満足度 価格の妥当性 価格の公平性

（※価格は当日の調査による自己申告による5段階評価の平均値です）

[illegible][illegible]

4. 学習へのモチベーションに影響したか

「少し上がる」が90.5%で最も多く、次いで「とても上がる」が9.5%であった。「若干下がる」「かなり下がる」の回答はなかった。

5. ゼミ内外のコミュニケーションに影響したか

「あまり変化しない」が61.5%で最も多く、次いで「少し役立つ」が33.3%、「とても役立つ」が4.8%であった。

6. 今後の会報に期待するか

「少しある」が61.9%で最も多く、次いで「あまりない」が28.6%、続いて「大いにある」「とくにない」が4.8%であった。

7. 関心を持って読んだ記事

創刊号記事の「初回の社会福祉援助技術演習の授業はこう行われた」が90.5%と最も多く、次いで同じく「社会福祉士国家試験 先輩から後輩へのメッセージ」が81.0%、続いて同じく「卒論、国試、就活 三本柱に挑む七人の学徒」が57.1%であった。

第2号記事では、「七夕に何を願う? IVゼミ 国試全員合格 IIIゼミ 実習・演習の目標達成」が52.4%で最も多く、次いで「卒論テーマ出揃う」が33.3%、続いて「演習IV、七人の学徒がゼミのあり方を議論」が23.8%であった。

第3号記事では、「人財・人材・人罪の違いを知る」が42.9%と最も多く、次いで「日本福祉図書文献学会第十二回全国大会に参加(IVゼミ)」が38.1%、続いて「ピアスーパージョンで始まる 後期最初の援助演習(IIIゼミ)」が19.0%であった。

ゼミ)」が19.0%であった。

一方、「輝ける星に… 『ラッキースター』を形作ろう」「学会出張～悲喜交々」「地域社会福祉政策研究所主催 学術講演会 十二月に」「和やかな、そして 和やかに」は4.8%と最も少なかった(図Ⅲ-2)。

8. 自由回答について

- 7名より、以下の回答が寄せられた。
- ・続けていくのは良いことだと思います。頑張ってください。適度に。
- ・読むのは楽しいし、思い出に残るので嬉しいです。
- ・残り少ないですが、楽しく頑張りましょう。
- ・内容もわかりやすく読みやすいです。
- ・先生の熱心さが伝わってくる会報だと思います。
- ・読んで参考になることもありました。また、自分の文章が載った時は嬉しく思いました。続けて欲しいと思います。
- ・ありがとうございました。

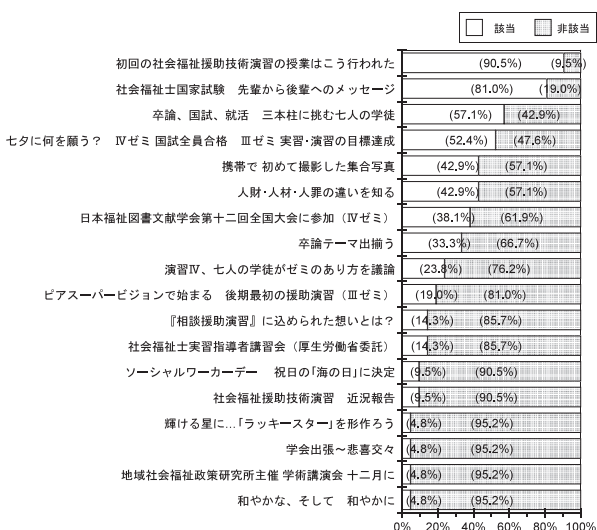
Ⅳ. 考 察

アンケート調査の結果から、学生はゼミ会報を「読んで良かった」と思っていることがわかる。また、抱くイメージも「好感が持てる」ものであったことが認められた。また、大学生活の「参考になる」と回答したものが8割を上回り、全員が学習への動機付けになったといえる。

しかしながら、ゼミ会報が仲間とのコミュニケーションに役立つものであったかどうかは定かではない。これは質問紙のワーディング²⁾において、「ゼミ内外のコミュニケーション」と表記し、「ゼミ内のコミュニケーション」とせずにダブルバーレル³⁾の形式をとったことにその要因があるかもしれない。

今後の会報への期待については6割強のものが持っているが、特に期待しないものも3割弱見られる。会報の編集・発行を継続・改善していく上での課題が、この後者の結果に潜んでいるように感じられる。

さて、関心を持って読んでもらった記事についてであるが、ベスト3をすべて創刊号の記事で占めていた。創刊号は学生にとってそれほどインパクトがあったのであろう。筆者自身にとって創刊号というのは、学生にこのゼミ会報を肯定的に受け入れてもらえるかどうかの試金石であったが、勇気づけられる雰囲気で教室内が包まれ



図Ⅲ-2. 関心を持って読んだ記事(複数回答)

ていたことが、その後の第2号、第3号の編集・発行の牽引となったことは間違いない。このように述懐できるが、いずれにせよ、紙面の最初の記事や学生にとって身近に感じられるものほど関心を持って読んでもらえるのだということが分析結果からは読み取れる。メッセージ性の強いものを今後どう発信していくかが課題といえよう。

おわりに、ゼミ会報は思わぬ副作用をもたらした。編集・発行した後には、毎号しばらく研究室のドアに掲示してきたことから、他ゼミの教員や学生、他大学の教員とのコミュニケーションにも活かされた。また、教育懇談会においても、本学社会福祉学部教育を、教員がどのような想いで実践しているかについて、保護者には具体的に理解していただける材料にもなったと思われる。今後も研究だけではなく、教育への熱い想いも心に秘めつつ、学内外に伝え続けられたらと考えている。そして、今年度のゼミ会報の編集・発行というものが、学生にとっても教員にとっても、ささやかながらも元気の素、パ

ワーの素になっていたことをここに確認し、筆を置くことにしたい。

注

- 1) エンパワメントとは、相手が本来持っている力を引き出すこと、あるいは本来の姿を取り戻してもらう過程を意味する。谷川和昭「地域福祉の体系」井村圭壯・谷川和昭編『地域福祉分析論』学文社、2005年、p.10
- 2) 質問文を作成することであるが、たとえば「質問文の作り方や言葉づかい」といった記述がなされている次の文献等が参考になる。坂田周一『社会福祉リサーチ』有斐閣、2003年、p.110
- 3) ダブルバーレルとは、2連発のことで、「あなたは、みかんやりんごが好きですか」というように、2つの論点を同時にたずねることである。みかんが好きだけれどもりんごが苦手である場合には回答しにくい。なお、本調査におけるワーディングでは、当初、「ゼミ内外」という表現はダブルバーレルに相当しないと判断していた。しかしながら、結果的には相当するものであったと推察される。同掲書3、p.109

